

薬局/薬店の漢方相談の実際

～鍼灸師が漢方相談を始める方法～



おいで薬局・おいで鍼灸院
生出拓郎（おいでたくろう）



本日の内容

皆さまへ

- ・ 本日一番お伝えしたい事！

種類と知識

- ・ 漢方薬の剤形
- ・ 病院と薬局/薬店の違い
- ・ 取扱い可能な漢方薬
- ・ 必要な知識
- ・ 中薬学
- ・ 方剤学
- ・ その他

メーカーと在庫

- ・ 漢方メーカー
- ・ 漢方団体
- ・ 必要経費
- ・ 在庫について

質疑応答

- ・ 時間の限りお答えします

現地特典

- ・ サプリの試飲など

漢方薬を学ぶ前に...

効果や患者満足度の
ボーダーライン →

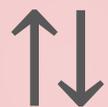
漢
方
相
談

鍼
灸
施
術

漢
方
+
鍼
灸
+
雑
談

これではダメだった?!

鍼が効かないと漢方薬は飲まない！



漢方薬が効かないと鍼は受けない！

主な漢方薬の剤形

煎じ薬

ブレンドした生薬に水を加え、火にかけて煮詰める

丸剤

散剤に蜂蜜を加え丸めて乾燥する

散剤

単味またはブレンドした生薬を粉末にする

カプセル剤

エキス剤や散剤をカプセルに入れたもの

エキス剤

生薬を煮詰めて抽出したエキスを顆粒や粉末に加工したもの

錠剤

エキス剤や散剤を錠剤に加工したもの

膏剤

生薬を水や植物油で煎じ、煎汁を濃縮したもの



剤形によるメリット・デメリット

	煎じ薬	エキス剤等
メリット	<ul style="list-style-type: none">・ 体質に応じて調整ができる (日本では限度がありますが...)・ 香りの効果も期待できる・ 品質をチェックできる	<ul style="list-style-type: none">・ 携帯できる・ 保存しやすい・ 飲みやすい・ 成分が均一
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・ 時間と手間がかかる・ 保存が大変 (虫が湧く)・ 煎じ方により成分にムラがある	<ul style="list-style-type: none">・ 処方を変えられない・ 数種服用時に成分が重複しやすい・ 湿気やすい

病院と薬局/薬店のメリット・デメリット

	病院	薬局/薬店
メリット	<ul style="list-style-type: none">・採血など検査が出来る・保険適用（安い?!）	<ul style="list-style-type: none">・保険適用にない処方がある・じっくり相談できる
デメリット	<ul style="list-style-type: none">・漢方外来の数に地域差がある・ゆっくり相談できない・保険適用の処方に限度がある	<ul style="list-style-type: none">・保険が効かない（高い?!）・検査や診断ができない・怪しい雰囲気がある?!

* ドラッグストアの漢方薬

お値段的に安く感じるものの、内容量が少ない・含有量が少ない（薄い）など、結果的に割高な場合が多いです。

医薬品の分類

薬剤師

登録販売者

医薬品

薬局医薬品

要指導医薬品

一般用医薬品

医療用医薬品

薬局製剤

第1類医薬品

第2類医薬品

第3類医薬品

処方箋医薬品

処方箋医薬品以外の医薬品



弁証論治

弁証

集めた情報を統合・分析し
診断と証が導かれる

論治

弁証に基づいて処方決定

理：弁証により診断・証のメカニズム

法：証に基づいた治療法則

方：治療法則に基づいた処方選択

薬：基本処方をもとに患者の体質に合わせて
生薬の加減や他の処方との併用

漢方相談をする為に学ぶ内容①

- ・ 中医学基礎
- ・ 中医診断学
- ・ 中薬学
- ・ 方剤学
- ・ 内科学
- ・ 専門各科（婦人・不妊・皮膚・腫瘍・五官など）

漢方相談をする為に学ぶ内容②

- ・ 西洋医学の知識：ガイドライン
- ・ 西洋薬の知識：作用機序／禁忌／副作用／併用
- ・ 食事：よく聞かれます
- ・ カウンセリング能力：傾聴
- ・ 資格：登録販売者

生薬を知る！

性：寒・涼・平・温・熱

方向性：昇・降・浮・沈

味：酸・苦・甘・辛・鹹

帰経：臟腑・経絡

辛温解表薬	清退虚熱薬	祛風湿薬	消導薬	収洪薬
辛涼解表薬	祛暑薬	行気薬	補気薬	平肝熄風薬
清熱瀉火薬	散寒薬	活血化瘀薬	助陽薬	開竅薬
清熱明目薬	攻下薬	止血薬	養血薬	外用薬
清熱涼血薬	潤下薬	温化寒痰薬	滋陰薬	(駆虫薬) (催吐薬)
清熱燥湿薬	峻下逐水薬	清化熱痰薬	重鎮安神薬	
清熱解毒薬	利水滲湿薬	止咳平喘薬	養心安神薬	

服用すると熱感を感じたり、寒涼性の症状に効果があるもの。

寒熱があまり顕著ではない。

昇浮：昇陽・発表・散寒など。

沈降：潜陽・降逆・清熱・滲湿・瀉下など。

性：寒・涼・平・温・熱

方向性：昇・降・浮・沈

味：酸・苦・甘・辛・鹹

帰経：臓腑・経絡

収斂・固澀

軟堅・散結・瀉下

滋補・和中・緩急

薬効の所在（臓腑・経絡）

清熱・瀉火・瀉下・燥湿・降逆

発汗・行気

人参（高麗人参・オタネニンジン）



実際の味と
働きから分類

性味：甘・微苦、微温

帰経：肺・脾

効く場所

効能：①補気固脱 ②補脾気 ③益肺気 ④生津止渴 ⑤安神益智

メモ：一身の気を補う。気血津液の不足すべてに使用可能。

煎じ3～9g、大量で15～30g。粉末は1回1～2g。

野山人参：野生品で補益が強い。現在はほぼ栽培品。

生晒参：天日干し。

白参：氷砂糖につけてから天日干し。補脾気が強い。

紅参：蒸した後に天日干し。心臓に良い。

※日本の白参は皮をとった生晒参。

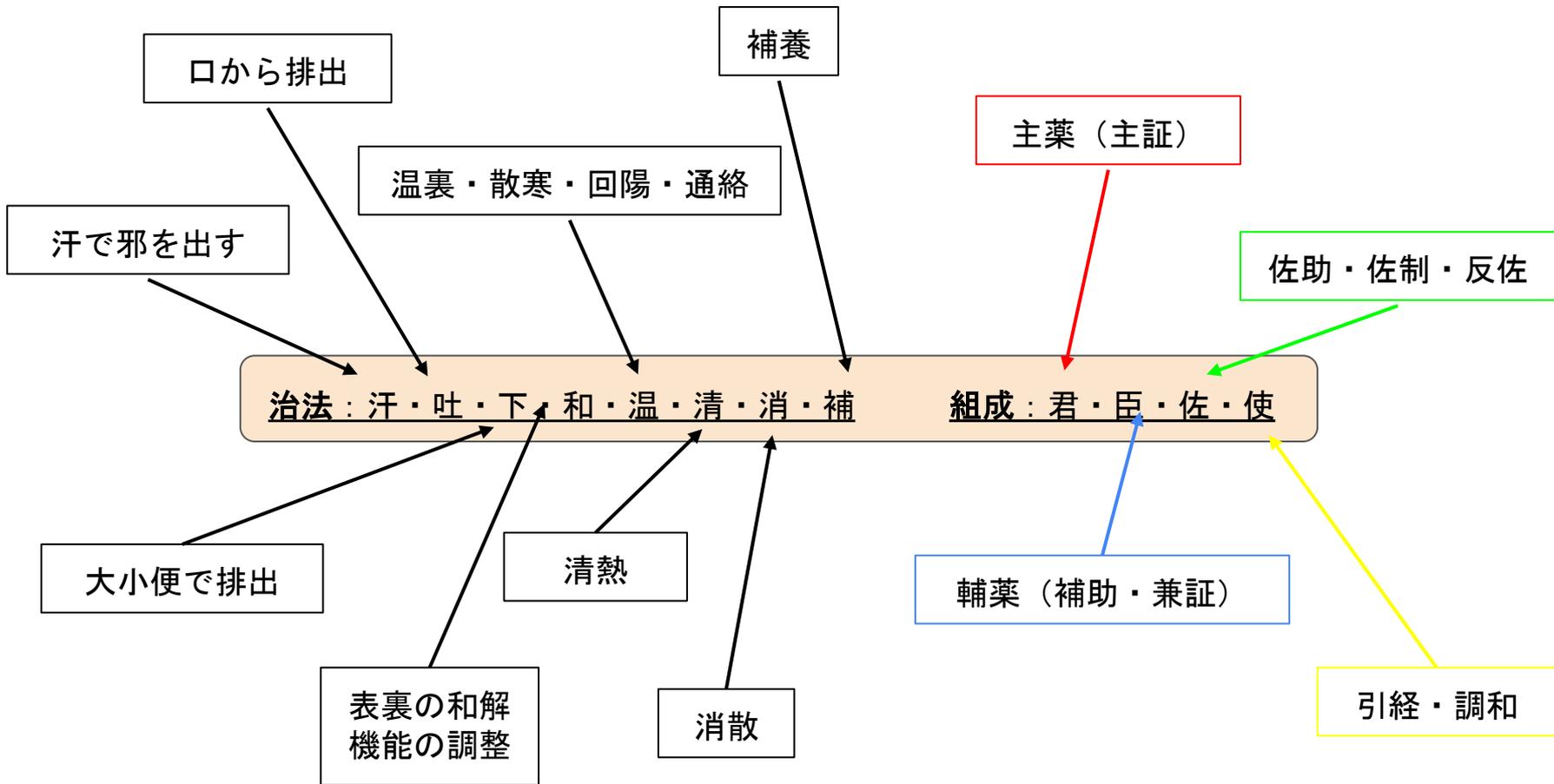
注意
陰虚火旺の骨蒸潮熱
肝陽上亢の頭眩目赤
などには禁忌。
夜飲むと眠れない
場合も。

処方を読む！

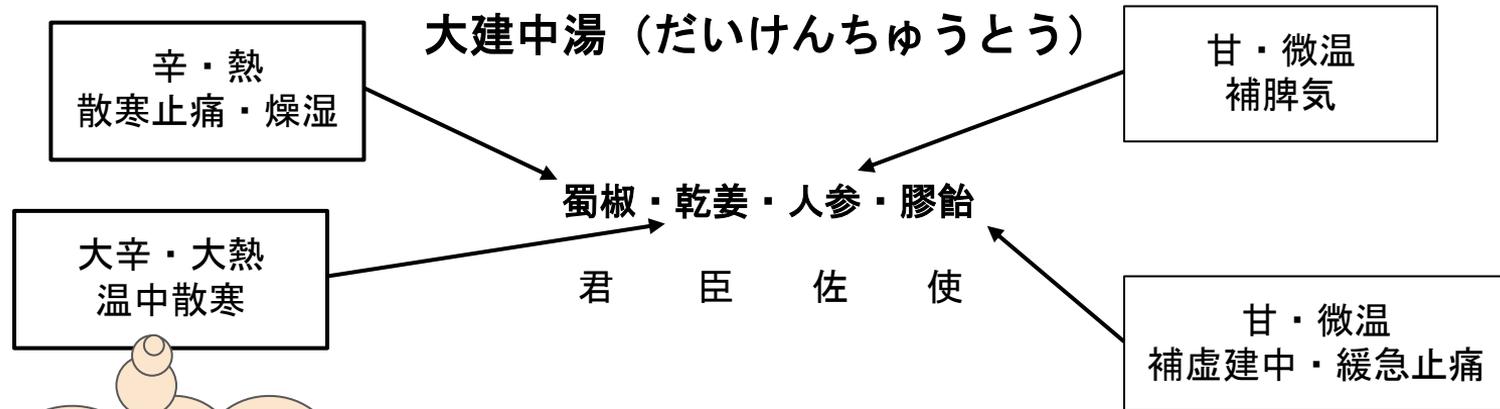
治法：汗・吐・下・和・温・清・消・補

組成：君・臣・佐・使

辛温解表剂	和解少陽剂	清臟腑熱剂	温經散寒剂	気陰双補剂	渋腸固脱剂	平熄内風剂	燥湿化痰剂	涌吐剂
辛涼解表剂	調和肝脾剂	清虚熱剂	解表攻裏剂	補陽剂	渋精止遺剂	輕宣潤燥剂	清熱化痰剂	外瘍剂
扶正解表剂	調和脾胃剂	祛暑清熱剂	解表清裏剂	重鎮安神剂	固崩止帶剂	滋陰潤燥剂	潤燥化痰剂	内癰剂
寒下剂	治瘡剂	祛暑解表剂	解表温裏剂	滋養安神剂	行気剂	芳香化湿剂	温化寒痰剂	
温下剂	清気分熱剂	祛暑利湿剂	補気剂	涼開剂	降気剂	清熱祛湿剂	治風化痰剂	
潤下剂	清営涼血剂	清暑益気剂	補血剂	温開剂	活血祛瘀剂	利水滲湿剂	消食導滯剂	
逐水剂	清熱解毒剂	温中散寒剂	気血双補剂	固表止汗剂	止血剂	温化水湿剂	消痞化積剂	
攻補兼施	気血兩清剂	回陽救逆剂	補陰剂	斂肺止咳剂	疏散外風剂	祛風勝湿剂	驅虫剂	



温中散寒剤（温裏剤）：理中丸・呉茱萸湯・小建中湯・・・



効能：温中補虚・降逆止痛
主治：中焦陽虚・陰寒上逆

生姜：ひね生姜—散寒解表・温中止嘔
乾姜：生姜を乾燥—温中散寒・温肺化痰
炮姜：乾姜を黒くなる程加熱—温中止瀉

※日本の生姜は乾姜・乾姜は蒸して乾燥

と：腹痛が激しくさわれない、お腹の張り、嘔吐、
食べられない、腹壁上に腸蠕動が見られる、
腹鳴、舌苔白滑・脈細緊
実熱、湿熱、陰虚火旺には禁忌
服用後にお粥を食べる！

腸管癒着形成抑制作用
消化管運動亢進作用
門脈血流増加作用
消化管ホルモン分泌促進作用
術後イレウス予防

桂枝湯

桂枝・芍藥・甘草・生姜・大棗

桂枝加芍藥湯

芍藥增量

桂枝加芍藥大黃湯

桂枝加芍藥湯 + 大黃

桂枝加朮附湯

+ 蒼朮・附子

桂枝加竜骨牡蠣湯

+ 竜骨・牡蠣

小建中湯

桂枝加芍藥湯 + 膠飴

黄耆建中湯

小建中湯 + 黄耆

葛根湯

+ 葛根・麻黄

四君子湯

人參・白朮・茯苓・甘草・生姜・大棗

六君子湯

四君子湯 + 二陳湯（半夏・陳皮・茯苓・甘草・生姜）

四物湯

熟地黄・当歸・芍藥・川芎

芎歸膠艾湯

四物湯 + 艾葉・阿膠・甘草

十全大補湯

四君子湯 + 四物湯 + 黃耆・肉桂

六味丸

熟地黄・山藥・山茱萸・沢瀉・茯苓・牡丹皮

八味地黄丸

六味丸 + 肉桂・附子

杞菊地黄丸

六味丸 + 枸杞子・菊花

漢方薬を經穴でイメージ



処方

麻黄湯

加味逍遙散

半夏厚朴湯

八味地黄丸

補中益氣湯

五苓散

効能

発汗解表

疏肝解鬱

降逆化痰

温補腎陽

益氣昇陽

利水滲湿

經穴イメージ

大椎（灸瀉）

太衝・三陰交（瀉）

豊隆・天突（瀉）

腎兪・太溪・関元（補）

合谷・足三里（補）

陰陵泉（瀉）・関元（補）



鍼灸と漢方薬の併用

① 鍼灸 > 漢方薬	② 鍼灸 < 漢方薬	③ 鍼灸・漢方薬	④ 鍼灸 ⇄ 漢方薬
<ul style="list-style-type: none">・ 鍼灸がベース・ 施術頻度も多い・ 漢方薬は施術のない期間などの補佐	<ul style="list-style-type: none">・ 漢方薬がベース・ 必要時に鍼灸 施術を追加	<ul style="list-style-type: none">・ 相乗効果を狙い併用・ 対象の症状や目的を 変えて併用	<ul style="list-style-type: none">・ 鍼灸施術から 漢方薬へ、漢 方薬から鍼灸 施術への移行

相性は抜群です。鍼灸・漢方の目的を共有できると理想的！

医薬品の分類

薬剤師

登録販売者

医薬品

薬局医薬品

要指導医薬品

一般用医薬品

医療用医薬品

薬局製剤

第1類医薬品

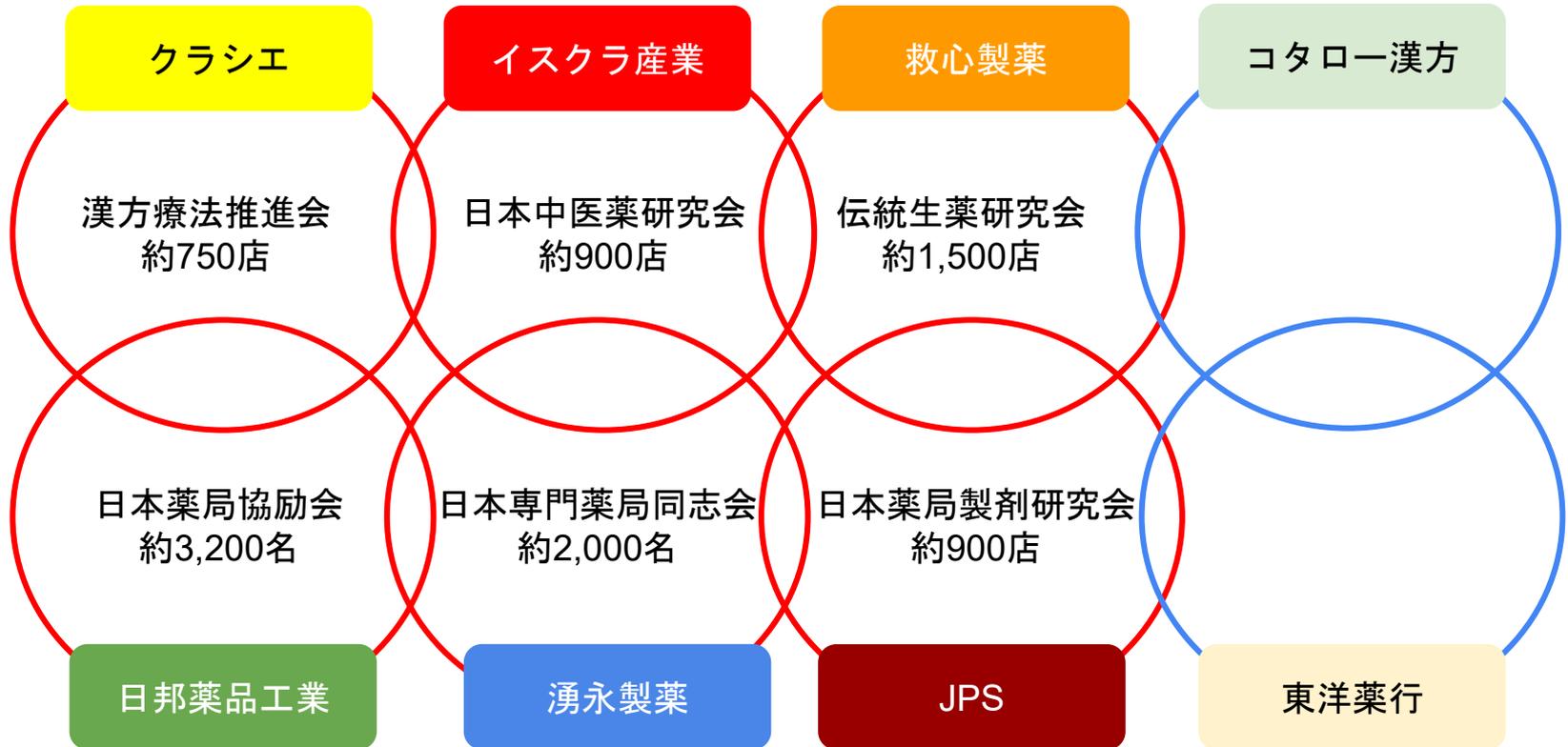
第2類医薬品

第3類医薬品

処方箋医薬品

処方箋医薬品以外の医薬品

漢方メーカーと団体の一例



どこのメーカーを使うか？

- ・ 入会金は？
- ・ 年会費は？
- ・ 掛け率は？
- ・ 返品の可否？
- ・ ネット相談の可否？
- ・ 勉強できる環境は？
- ・ フォロー体制は？
- ・ 差別化できる？



- ・ 実質0が多い?!
- ・ 0～60,000円
- ・ 5～6.5
- ・ 不可！
- ・ バラバラ
- ・ 会費があると勉強も多い?!
- ・ 相談できる人や仲間は?!
- ・ 他社や医療用と差別化を！

鍼灸院との違い

在庫

期限のある在庫を持つ！

支払い

売れる前に支払いが必要！



専門性

在庫を絞る！

メーカー

効く！差別化！

本日の参考資料

中医臨床のための中薬学
中医臨床のための方剤学
中医診断学ノート
中医内科学
いかに弁証論治するか
漢方方剤ハンドブック
基礎からの漢方薬
臨床経穴学

編著：神戸中医学研究会
編著：神戸中医学研究会
著者：内山 恵子
監修：陳志清 路京華
著者：菅沼 栄
著者：菅沼 栄
著者：金 成俊
著者：李 世珍

日本中医薬研究会

学ぶ機会に恵まれております！

- ・ 地区定例会
- ・ 学術講座（基礎中医学、中医診断学など多数）
- ・ イスクラ専門講座
- ・ "活血と補腎" 100+プロジェクト
- ・ 学術シンポジウム
- ・ 全国大会

イスクラ産業（株）のフォロー！

- ・ 中医師に相談できる！
- ・ 好条件の掛け率や販売助成金
- ・ サンプルの提供など

